

# わたしの聖戦

◎◎女性が働くということ◎◎◎◎40

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津江

## 「いい女」と「いい男」

よくあることだが、男が選ぶ「いい女」と女が選ぶそれとは微妙にずれる。

色々な雑誌などで、美人やかっこいい女性のベストテン特集をしているのを見かけるが、男の選ぶ美人やこの人が好きコナーなどに登場する女性芸能人のなかには、女が眉をひそめるタイプがままある。

一般的にあって、同性に嫌われる女性というのは、男に媚（こ）びる、シナを作る、ぶりっこだ、などなどがあがる。概して、同性の前と男性がいるときとで態度が変わる女性はず嫌がられる傾向にある。これは当然の

ことで、男女にかかわらず会社でも普段のときと上司のいるときの態度が違えば、誰も信頼を寄せたりしない。

しかし、本当に怖いのは、そのような様子が誰の目から見ても明らかで、人ではなく、まったくその素振りがなく、まったくわらわず実は裏表がある人かもしれない。とすればこの場合、男性に好かれていてもほとんど女性に嫌われるわかりやすいタイプ（例えばさとう珠緒や菊川怜など）はまだ単純で、女性にも男性にも好かれる女性のなかに、とんでもなく世間体がある可能性も考えられる。逆に、女性にとっての

「いい男」と男性が選ぶそれは、女性の場合ほどすれ違うのかといえ、これがよくわからない。女性が選ぶ男性スターについて、同性である男性がどう思っているかを声として聞く機会は少ないように思えるからだ。

（のを見て、男性たちが苦虫を噛（か）み潰したような顔をしたり、非難の声を吐くのをよく耳にしたが、それらは同性に対する複雑な嫉妬と無関係ではなかった気がする。

日本の女性は本当に美しくなった。女優やモデルたちにも負けないくらい容姿の人も結構見かける。もしかしたらそれは、「好きな芸能人」を思い浮かべ、常に手本としてみずから努力をし続けてきた成果ではないだろうか。



上司がいる時の態度が...  
は同性を讃えたり誉めたりということをあまりしないのではないだろうか。実際、女性が選ぶスターとして女性も男性も対象になるのに比べ、男性が好きな男性スターの特集というのはいま見かけない。もともとお気楽な他愛のないものであるが、男性たちは占いと同性の遊びがあまり好きではないのかもしれない。

あこがれと嫉妬（しつと）は表裏一体といつていい。「好きな芸能人」「嫌いな芸能人」両方の上位に同じ名前がしばしばあがるのはその表れだろうが、いい意味でも悪い意味でも常に誰かを意識していることに変わりはない。

韓国俳優の台頭が著しかった少し前、彼等を誉める男性陣は珍しかった。若い女性中心の文化が根強い日本にあって、ふだんほとんど蚊帳の外である年配の女性たちが熱狂した（といっても過去形ではなく現在も続いてい

るのだらうか——。

残念なことには、女性に比べると日本人男性はまだまだだといった感がある。男性たちも積極的に同性を評価し、見習うべきところを見習うことで、自身に一層磨きがかかり、結果的に日本に「いい男」が増えるのではないかと期待するのである。